

2021年3月26日改訂

Journal of Textile Engineering 原稿執筆要項（和文論文）

一般社団法人 日本繊維機械学会
ジャーナル編集委員会

1. スコープ

Journal of Textile Engineering は、日本繊維機械学会が発行する査読付き学術雑誌です。本誌が対象としている分野は、テキスタイルと繊維機械の分野に関する科学と工学です。本誌は、この分野における独創的な研究成果を出版することにより、テキスタイル科学の進歩だけでなく、テキスタイル工学の革新にも貢献しています。さらに今日、本誌の対象分野はますます広がっています。たとえば、プラスチック製品の成形加工をはじめ、複合材料の成形加工、テキスタイル製品のリサイクル工学、バイオテキスタイル工学、被服心理学、ナノファイバー工学などがあげられます。

2. 原稿の種類

一般論文（Original Paper）：繊維または繊維機械に関連する科学・工学に関して独創性・新規性のある未刊行の論文であり、信頼性が高く新しい価値ある結果を得ているもの。原稿の長さは、原則として刷り上がり8頁以内とする。

短報（Short Paper）：一般論文と同様に繊維または繊維機械に関連する科学・工学に関して未刊行の論文であり、萌芽的、断片的研究ではあるが信頼性が高く価値ある結果を得ているもの。原稿の長さは、原則として刷り上がり4頁以内とする。

技術報告（Technical Report）：繊維または繊維機械に関連する技術に関する未刊行の報告で、繊維技術と繊維産業の発展に貢献する技術を公表することでこの分野の発展に寄与することを重視したもの。信頼性が高く新しい価値ある結果を得ていることが必要である。単に既存の技術の紹介や特許の解説ではなく、従来の技術に新しい学術的視点を加えることでさらに発展させた技術の開発につながる内容であることが求められる。原稿の長さは、原則として刷り上がり6頁以内とする。

レビュー（Review）：繊維または繊維機械に関連する科学・工学・技術に関する最近までの研究や開発動向、将来展望を、過去の論文や報告を数多く引用してまとめた未刊行のもの。原稿の長さは、原則として刷り上がり8頁以内とする。

3. 投稿資格

どなたでも投稿できます。ただし掲載料として、本学会の会員（法人会員の社員などの構成員も含む）には会員価格を、非会員には非会員価格を適用します。著者の中にひとりでも会員がいる場合は会員価格を適用します。いずれの価格を適用するかは、原稿が採択ののち出版される時点で判断する。

4. 投稿方法

原稿、著作権譲渡承諾書の電子ファイルを、下記のジャーナル投稿ウェブサイトからアップロードすること。

<https://tmsj.or.jp/tmsj-form-mail/jte-entry/>

投稿から 1 週間以内に、原稿を受け付けた旨の返事がジャーナル編集委員長から届かない場合は、上記のメールアドレスにその旨を問い合わせること。

原稿、著作権譲渡承諾書の電子ファイルは、次のフォーマットを受け付ける。

- ・ Microsoft Word（doc または docx 形式）

Word の文字化けを確認するため、PDF も同時にアップロードすることが望ましい。

著作権譲渡承諾書の電子ファイルは学会の下記のウェブページから取得できる。

<https://tmsj.or.jp/jte/>

5 原稿用紙

A4 用紙を原稿用紙として用いること。

6. 原稿の書き方の概要

6.1

原稿の書き方については Example of manuscript を参照のこと。学会のウェブページから入手できる。

6.2

文章は、和文では原則として常用漢字と現代仮名使いを用いた表記とし、英文ではローマン体活字を用いて書く。フォントは、和文では MS-明朝や MS-ゴシック、英文では New Times Roman や Arial などの標準的なものを使用する。

6.3

原稿の 1 枚目に次の事項を書く。

論文題目 (英文)

著者名 (英文)

所属機関 (英文)

論文題目 (和文)

著者名 (和文)

所属機関 (和文)

連絡先 [所属機関・住所・E-mail・Tel・Fax] (和文)

6.4

著者の現在の所属機関が研究の行われた時点と異なる場合は、研究が行われた時点での所属と現在の所属とを分けて示す。

6.5

原稿の 2 枚目に英文要旨 (Abstract) を書く。書き方は「7. 英文要旨」を参照のこと。

6.6

原稿の 3 枚目から本文を書く。書き方は「8. 本文」を参照のこと。

6.7

本文のあとに、参考文献 (Reference)・図説明 (Figure caption)・表説明 (Table caption) をそれぞれ別ページに書く。書き方は「9. Reference」と「10. 図および表」を参照のこと。

7. 英文要旨

英文要旨 (Abstract) は簡潔に内容を要約し、長さ 150～200 語程度とする。途中で改行は入れない。さらに 5 個以内の英文キーワードを付ける。

キーワードの例：

Yarn path, Non-destructive measurement, Dyeing process, Color polyurethane yarn, Simple shear flow, Image analysis

8. 本文

8.1

句読点には「,」と「.」を用いる.

8.2

論文の体裁は原則として次の順序による.

緒言（研究の目的, 論文の位置づけなど）

理論・実験法

結果と考察

結言（結論や展望など）

謝辞

References

8.3

単位には SI 単位を用いる. ただし, 慣用的に用いられている単位については, 読者にとってより理解しやすくなると著者が判断する場合には括弧書きで併記してもよい.

例： 2.54 cm (1 inch)

8.4

文章と同じ行中にある数式は a/c , $(a+b)/(c+d)$ のように書くが, 文章と別の行中にある場合はこの限りではない. 式番号は (1) 式, (2) 式のように通し番号とする.

9. Reference

文献の引用は引用箇所に [] を付して番号を記入する. 文献の記述はローマ字とし, 次の形式による. DOI が付与された文献については, その URL を記載する.

9.1

雑誌の場合

著者名 (西暦の発行年) 雑誌名, 巻数, 開始頁-終了頁, DOI

(例)

- [1] Yukawa H (2005) Sen'i Kikai Gakkaishi (Journal of Textile Machinery Society of Japan) (predecessor journal of Journal of Textile Engineering), **50**, T110-T115 (in Japanese).
<https://doi.org/10.4188/transjtmsj.62.271>
- [2] Johnson R, William DE, McNerney L (2005) Journal of Textile Institute, **80**, 177-189.
<https://doi.org/10.4188/jte.60.212>
- [3] Nogai T (1982) Sen-i Gakkaishi, **38**, 413-420. <https://doi.org/10.4188/jte.64.23>
- [4] Yamada S (2018) Journal of Textile Engineering, **63**, 78-89 (in Japanese).
<https://doi.org/10.4188/jte.63.111>

9.2

書籍の場合

著者名 (西暦の発行年) "書名", 頁または章, 発行所名

(例)

- [5] Kitayama S (1998) "Sen-i no soshiki to kagaku", Chap 1, Shikisai Kagakusha, Tokyo (in Japanese)
- [6] Alexander LF, Doi JB (1998) "Polymer Science", pp135-140, John Wiley and Sons, New York
- [7] Manchester J, Osaka T (1998) "Computational Fluid Dynamics", p123, John Willey and Sons, New York

日本語で書かれた書籍であっても英語表題がある場合は, それを記載する. [5]のように英語表題がない場合はそのままローマ字表記とし, 日本語表題を別途, 仮名漢字でReferencesの最後に次のように記載する.

文献 (日本語表記)

- [5] 北山修一 (1998) “繊維の組織と科学”, 第1章, 色彩科学社, 東京

9.3

報告書や白書などの場合

(例)

[8] Ministry of Economy, Trade and Industry (2017) “Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance 2017”, Chap 2, Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo (in Japanese)

[9] Ifuku no juyou chousa kenkyuukai (2017) “Ifuku no juyou ni kansuru keikou no chousa houkokusho”, p123, Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo (in Japanese)

日本語で書かれた発行物であっても英語表題がある場合（例：国の機関が発行する白書など）は、それを記載する。[9]のように英語表題がない場合はそのままローマ字表記とし、日本語表題を別途、仮名漢字で Reference の最後に次のように記載する。

文献（日本語表記）

[9] 衣服の需要調査研究会（2017）“衣服の需要に関する傾向の調査報告書”，p123，経済産業省

9.4

特許公報の場合

(例)

[10] Nishi Kikai Co Ltd (2010) Japanese Patent 19530313 (in Japanese)

9.5

公開特許公報の場合

(例)

[11] Shinshu Textile Co Ltd (2011) Japanese Patent Application 2011-195671 (in Japanese)

9.6

ウェブページアドレス（URL）は References に記載できない。

10. 図および表

10.1

図および表は図表ごとに別ページとし、図番号は図の下側に、表番号は表の上側に記入する。

10.2

図は、刷り上りの約2倍大で鮮明に書く。図は縮小されて印刷される場合があるので、文字や記号は縮尺を考慮して適切な大きさに記入する。図の解像度は、線図の場合は600 dpi以上、写真やイラストの場合は300 dpi以上とすること。

10.3

図および表中の文字、説明文は英語で書く。

10.4

図および表の説明 (Captions) は英語で、別紙にまとめて書く。

10.5

カラー印刷には規定の料金を別途徴収する。

12. 著作権 (著作権)

原稿の著作権 (著作権) は、本ジャーナルに掲載されたあとは (一社) 日本繊維機械学会に帰属する。ただし、J-STAGE で一般に公開されたあと、著者が保有する著者最終稿 (掲載が決定した原稿のうち査読を終了した最終段階のもの) については、出典を表示することで著作者が属する機関等 (機関リポジトリも含む) のウェブページでの公開を認める。詳しくは学協会著作権ポリシーデータベースのウェブサイトでも本ジャーナルに関するページを参照のこと。

12. 掲載料 (別刷料)

掲載料は下記のとおりである。なお、掲載料には PDF ファイル (著者が希望する場合はさらに紙媒体の別刷100部) を含む。100部を超える別刷を希望する場合は、別途費用を徴収する。11ページ以上の料金には、1ページ増すごとに10,000円が加算される。

掲載料 (別刷料) (税別)

頁数	1-4	5	6	7	8	9	10
会員価格 (円)	20,000	30,000	35,000	40,000	50,000	60,000	70,000

非会員価格（円）	30,000	40,000	45,000	50,000	60,000	70,000	80,000
----------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

13. 問い合わせ

Journal of Textile Engineering についてのお問い合わせは、下記メールアドレスのジャーナル編集委員会まで遠慮なくどうぞ。

tmsj-submission@tmsj.or.jp

改訂履歴

2018/01/20	原稿の種類の変更など
2018/02/22	投稿資格の補足：会員（個人会員または法人会員の従業員）
2018/03/02	References を記載する書式の細かな修正など
2018/08/27	誤植の修正
2018/11/30	References において、DOI を付与されている文献については URL の記載を義務化する。
2019/03/12	本誌が査読付き雑誌であることを第 1 章に明記した。
2019/12/17	著作権（著作権）について第 12 章に明記した。
2019/12/17	慣用的な単位の記載法について第 8 章に明記した。
2020/07/12	投稿資格を改訂し、掲載料（別刷料）に非会員価格を設定した。
2021/03/26	原稿の投稿をウェブサイトから行うように変更した。 技術報告の定義を改めた。

